

○議長（前原英石君） ただいまの出席議員数は7人です。定足数に達していますので、休憩前に引き続き会議を開きます。

3番 加藤智恵子君。

○3番（加藤智恵子君） 3番加藤智恵子です。私からは、保育所と高齢者支援についてお伺いします。

初めに、村内の2か所の、Y M C Aふなはしこども園とふなはしすきっぷ園の入所状況と待機児童の見込みについてお伺いします。

また、今後保育園入園を希望される保護者の参考のためにも、Y M C Aふなはしこども園とふなはしすきっぷ園の各定数と、年度途中に入園を希望する場合、どの施設に何月に何人受入れが可能か教えていただきたいと思います。

先ほど森議員も発言されましたが、一昨年から、東芦原地区、竹内地区、海老江地区などに新たに宅地が三十数区画造成されており、未就学児の転入も予測されます。そこで、住民からは、保育所は全員入れるのか。今年も育休の延長や村外の保育所を勧められたりするのか。例えば、今村に在住の方が何月何日ぐらいから職場復帰しようと思っているところに、転入された方が、ポイントが高いと、そっちのほうが優先されるということがあるのか。その辺を不安がっておられるので、お伺いしたいと思います。

それと、村の皆さんは、去年3月まですきっぷ園として未満児の保育を行っていた、莫大なお金を投じて造ったすきっぷ園の園舎が、1年使った後は、もう去年からは使っていないということで、今どういうことに使われているのか、今後どういうことに活用する予定なのか伺いたいと思います。

次に、高齢者支援についての質問と提案です。

高齢者支援といっても多数ありますが、今回は、交通弱者というか、足腰が弱くなると、自分で行きたいところにも行けなくなる。そこら辺を心配される方がとても増えてくるのが、2025年の団塊世代の方が75歳以上になるという、いわゆる2025年問題にいよいよ2年後には突入するということになります。

この頃になると、先ほども申し上げましたけども、個人差はありますが、身体的な衰えが目立つようになります。例えば、個人差はあっても、おぎゃーと生まれた赤ちゃんは4か月ぐらいで首が据わります。その後は順番に、1歳半ぐらいになると、ほぼ大人と同じような物を食べられるようになって、話せるようになるし、走り回れます。成人すると、大体安定期というか、元気な活動期が続くわけなんですけども、65歳、70、

特に75ぐらいになると、赤ちゃんの首据わりと同等な議論で、やっぱり体力がとても衰えてくるわけなんですね。

そこで、足腰が弱る方のために、村でも自動運転バスの導入が検討されるということで、村人はすごく喜んでおられます。わくわくする。どんな感じになるんだろうという感じで期待値はとても高まっていますが、新しい試みなので具体的なイメージが湧かないという声も聞かれます。どこを出発して、どこを通過して、どうやって、どうやってみたい。支払いもいるのかとか。そこら辺がすごく関心の高いところなので、高齢者にも分かりやすい具体的な説明をお願いしたいと思います。

あと、舟橋駅から出入りしてほしいということです。それと、2番線ホームに通じるスロープの設置を希望します。

平成8年に越中舟橋駅の駅舎が解体され、平成10年3月に舟橋村文化・福祉複合施設として新駅舎が合築されました。資料、写真は懐かしいのもあるんですけども、最後の写真の、駅舎の手前が駐車場になっていて、そこら辺が仮の改札口になっていて、皆さん、そのときに現役のサラリーマンとして活躍されていた方たちが、実際に今度体が弱くなって、駐車場が北側にはほぼなくて、南側に車を止めて、地下道を通って改札口に出るか、ぐるーっと回って改札口に出るかということなので、それがとてもしんどく感じるようになってきたということです。

なので、南側に改札口及びスロープをつくっていただくととても助かるし、今後そういう方が増えるということも十分予測されるので、ぜひ検討してほしいと思います。

そこで、大抵の場合はコストの面も考えられるとは思うんですけども、その辺、今私が申し上げた案を富山地方鉄道の担当者の方に相談したところ、お手元に配付してあります資料をいただきました。それで、それを手がかりにいろいろ調べてみたところ、舟橋駅にスロープをつけたりすることは、今のこれからの高齢化を迎える時代に沿って国や国土交通省も動くということになって、補助金が出る可能性もあるわけなんです。

そこで、昨年9月に第1回の話合いが持たれたと書いてあるんですけども、舟橋駅も、今は北側の改札口がメインにはなっていますが、車で止めたりすることもできないので、ぜひ南側に改札口を造って通用できるようにしていただきたいと思います。

地鉄電車は、朝の7時・9時のラッシュの、乗り降りの一番多い頃には職員さんを配置されているんですけども、ほとんど、それ以外の時間帯は無人なので、三郷駅とか、同じような扱いでもいいのかなという感じで考えております。

ぜひ高齢者のために、また一般の方もそこがあると、こういうことを言ってどうかとは思いますが、南側の線路の横、ホームの西側かな、の有刺鉄線が切られており、さびついていて、1メートルぐらいは楽に人の出入りできる跡がいっぱいあります。

ということで、本当はそれは危険だということを先に申し上げないといけないんですけども、そういう実態もあり、昔、平成10年に完成したわけで、23年前にはそこから出入りしていて、特に事故とか、そこら辺も今まで聞いたこともないので、そこを正面にする考えを持って対応していただけたらありがたいと思います。

以上です。よろしく申し上げます。

○議長（前原英石君） 生活環境課長 田中 勝君。

○生活環境課長（田中 勝君） 3番加藤議員の保育所入所状況についての質問にお答えいたします。

待機児童発生のある・なしについてですが、令和4年度中の出生者については、こども園とすきっぷ園の両園のご協力により、満1歳時点で受入れは全て可能と認識しております。また、複数の保護者の方から、2歳までは家で保育したいとの要望も聞いております。

令和5年度の定数につきましては、ふなはしこども園が140名、ふなはしすきっぷ園が70名となっております。

年度途中の受入れにつきましては、今現在把握している人数は0歳児が21名、1歳児が4名、2歳児が1名、3歳児が1名となっております。0歳児につきましては、4月1日付の受入れで既に3名の受入れが決まっているため、合計は24名となります。

以前に27名の予定と申し上げておりましたが、2名の保護者の方が入所を希望されるかどうか今現在確認が取れておらず、1名の方の出生がまだ確認されておられません。

今後宅地造成に伴う転入が増加すると思われませんが、事前に情報を得るようにして、なるべく入所できるように努めてまいります。0・1歳児に入所が集中した場合は、令和6年度の入所を検討していただく可能性もございます。また、両園に協力をお願いするものの、年の違う2人以上同時に入所の場合は園が分かれる場合もあり、保護者方にご迷惑をおかけすることもあると思いますが、なるべく多くのお子様を預け入れられるように努力してまいります。

令和3年度に小規模保育で使用していた施設については、すきっぷ園のほうで週1回子育て支援施設として、保育園入園前のお子様と保護者を対象に親子サークルを開催す

ると聞いております。

去る3月4日に開催した舟橋村子ども・子育て会議で、保護者の方から出た要望で、役場からの情報が大変少ないというご指摘がございました。そのとき、保健師のほうから、妊娠時に役場に来られたときは積極的に既存のふなはし親子手帳アプリに加入していただき、プッシュ型で情報提供したいとの改善提案もいたしました。

職員は子育てされる保護者の方の要望にお応えできるように努力しておりますので、議員のご理解を賜りますようお願い申し上げまして、答弁いたします。

○議長（前原英石君） 村長 渡辺 光君。

○村長（渡辺 光君） 続きまして、3番加藤議員の高齢者支援について、質問にご回答をさせていただきます。

まず、冒頭にごございました高齢者に対しての外出支援については当たると思いますが、先般の全員協議会でもお示しさせていただきましたとおり、自動運転バスというものがまさに全世代を対象とした外出支援に当たる施策だと考えてございます。

現在、自動運転バスにつきましては、国が掲げる目標として、地方部だけではなく地方都市なども想定し、2025年度までには多様なエリア、多様な車両に拡大して40か所以上に展開することを目標に掲げている状況となっております。

あわせて、ドライバーを必要としない自動運転は、厳しい経営下にさらされがちな地方の公共交通にとっては、中長期で捉えたときには持続性の高い公共交通として今後代替していくものと認識しております。2030年頃までに自動運転バスが全国に普及する過渡期と言われております。

そして、先ほど田村議員の質問に答弁させていただいたとおり、医療を受けられる環境整備という点に対しましても、本自動運転バスの導入の是非の検討を進めてまいりたいと考えております。

そして、副次的な効果としては、公共交通のインフラ整備は移住や定住の促進にもつながると考えられます。人の移動が活発になれば、産業の振興も視野に入ることも可能であると考えております。

具体的方針につきましては、今の段階では、具体的な費用面や富山県内における走行の課題等詳らかにはなっていない状況であります。導入を先行している地域への視察や、令和5年度は富山市も実証実験を行う報道もございましたので、そのような自治体と連携を深めながら、情報収集に5年度は注力したいと考えております。

自動運転バスのイメージについては、現時点では近隣地域を走行している状況ではないため、今後、先述の調査を進める過程において、広く村民の皆様にも情報を発信していくことで対応を図りたいと。そして、今ほどご指摘にもございましたように、通行ルートであったり、利用料金等の議論の機運を高めるよう図ってまいりたいと。そのように考えておりますので、ご理解をお願い申し上げます。

続きまして、舟橋駅南側の出入口の設置と2番線ホームに通じる外づけスロープの設置の件についてお答えさせていただきます。

この件につきましては、平成28年から30年にかけて、竹内自治会より、駅南駐車場側から2番線ホームへ直接出入りが可能となるよう整備する旨の要望をいただいております。当時においても地鉄様と協議をいたしましたが、整備に要する費用や運用管理の面から実施は難しいとの判断に至り、その旨を竹内自治会長様へお答えした経緯がございます。

以上を踏まえて再度地鉄様と本件について協議をいたしましたが、前回同様に費用や運用管理面から、いずれも実施は困難であると判断せざるを得ないと回答をいただいております。

理由を申し述べますと、有人駅として位置づけられている越中舟橋駅に、2つ目となる南側にも改札口を設けた場合、北口と同様に南側にも駅員配置が必要となり、費用面、運用管理面から実現が困難であること。仮に無人駅とした場合、南側に改札口を設置することが物理的には可能とはなりますが、利用者サービスの低下が懸念されるところでございます。

また、2番線ホームに通じる外づけスロープ設置に関しましては、整備する場合、バリアフリー法に対応した改修が必要となり、現状の駅用地範囲内で施工はできないとのことでございます。

いずれにいたしましても、多額の事業費が見込まれ、仮に本村で幾分負担させていただくとしても、実施主体である地鉄様からは、比較的整備が整った舟橋駅において新たな設備投資は難しい旨のお返事をいただいております。

このような状況をご理解を賜りますようお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。

○議長（前原英石君） 加藤智恵子君。

○3番（加藤智恵子君） 今ほどは丁寧なご答弁、ありがとうございました。

そこで、南側から出入りする改札口とかバリアフリーというのは、ずっと以前から言

われていたんですけども、今回私が述べさせていただいたのは、地域公共交通確保維持改善事業についてということの資料の1ページ目の左下のほうに書いてあります地域公共交通バリア解消促進等事業でバリアフリー化ということで、これに対応するのではないかということで、28年の改善して国のほうも動いていますので、検討の余地はあるのかなと思った次第なので、何とか検討だけでも前向きにさせていただけたら。

そして、ひょっとしたら安いコストでいけるかもしれないので、やっぱり高齢化に向けて世の中も動いていますので、平成28年ではなく、2023年度、305億円の予算をつけて国も頑張っていますので、村もそれに応えるべく、そして村民の高齢者に恩恵が行くように、できれば前向きに検討してみただいて、それがうまくトントントンといったらいいかなと思います。

もちろん短期的な目標ではなく、25年、まだ2年ありますし、だけど25年が絶対ではなくて、高齢者、身体障害者、そういう方が増えているという昨今を参考にさせていただけたらありがたいと思います。

以上です。

どうもありがとうございました。

○議長（前原英石君） 村長 渡辺 光君。

○村長（渡辺 光君） 今ほどの加藤議員のご質問に、改めてお答えをさせていただきます。

ご提案いただきましたこの「地域公共交通確保維持改善事業 生活交通サバイバル戦略」という資料がございます。こちらに関しましても、前提としては、あくまでも主体となる地鉄さんの同意というか、ご理解もあって、取り組む必要が生じた際には、村当局としても、こちらの制度を利用して何らかのお力添えができないのかという点に関しましては、今後検討をさせていただきたいと思います。

ありがとうございます。